

I 卒業生は今

■海外で活躍する卒業生の報告

①永田誠 (H5) トヨタ自動車(株) プラントエンジニアリング部 工場計画室

1993年に卒業後、トヨタ自動車に入社し、自社内建物の企画・計画・工事管理・保全の業務に携わり、工場、事務所ビル、実験棟、福利厚生施設など、様々な建物の業務を経験させていただきました。

2010年からは、それまで国内物件のみの担当をしてきましたが、近年社内では国内生産を維持しつつ、海外生産にシフトしていく中、海外の工場建設を担当することとなり、最初の2年間はブラジルの車両工場建設、その後はインドネシアの車両工場建設の担当をさせていただきました。慣れない海外出張を何とかこなしながら、現在に至っております。昨年後半からは、同じくインドネシアのエンジン工場建設を用地取得から関わり、将来も含めた土地利用計画から造成工事、インフラの引込み計画などを検討しながら、現在は工場本体の設計要件をまとめている状況です。

当初は、それぞれの国の国民性に容易に馴染むことができず苦勞しました。スケジュール管理、品質管理など、日本では当たり前のように実施で

きていたことが、容易にできず現地のスタッフ、仕入先の方々との衝突が何度もありました。しかし、やはり人間同士、繰り返し説明、話し合いを行い、同じ目的意識を持てるようになれば、自然と意思疎通ができるようになってきました。

今後も、新興国を中心に、工場建設は続くと思われま。多くの国で様々な経験をさせていただき、自分が担当したそれぞれの国の工場生産された車が、世界中のお客様のもとに届けられることを誇りに思い、引き続き頑張っていきたいと思っています。



現地のスタッフとインドネシアにて

②村山(旧姓：中川)景子 (H6) Skidmore, Owings & Merrill LLP

大学院を卒業後、名古屋と大阪の設計事務所設計6年過ごした後2002年に渡米、2004年Harvard University GSDにて都市デザイン修士課程を修了しました。名工大卒業時も就職氷河期で必ずしも就職活動は楽ではありませんでしたが、Harvard卒業後は状況は更に厳しく、現職の内定をいただくまでに1年かかりました。

2005年よりSOMサンフランシスコオフィスにて主に中国・東南アジアを中心とした海外の都市再開発事業に携わっております。大阪の事務所は少人数だったこともあり、確認申請から一連の設計図、そして設計監理まで勉強させていただきました。分野は建築から都市計画・デザインに変わりましたが、その頃培った経験が今でも思わぬところで活用できるのを認識するたびに、どのような経験も決して無駄ではないのだなと痛感しております。

今このように海の向こうの地で働くことができるのも、学生の頃からの先輩方のご指導ご鞭撻の

おかげだと、今でも感謝の念に絶えません。大阪にいた頃は現場に向かうため御堂筋線に飛び乗る日々でしたが、今は現場に向かう為に国際線に飛び乗っております。規模は違えど10年経ってもやってくることは変わらないなと苦笑する日々を過ごしています。



広州：白鵝潭マスタープランでは同僚と共にチームリーダーの役と中心区のデザインを担当させていただきました。

③阿折忠受 (H11) (株)三菱地所設計

学生のころは海外留学を考えたこともない私。まさか海外で設計の仕事に携わるとは、正直思いもしませんでした。そんな私が上海に転勤を言い渡されたのが2009年の末、それから早4年が過ぎました。この4年間だけでも中国の変化は著しく、すごい勢いで成長しています。三菱地所設計も2011年に現地法人をつくり、中国で本格的に設計活動を開始しました。

中国ってどうなの？大変じゃないの？と思われる方が多いと思います。もちろん大変です。日本の週刊誌等で取り上げられるようなことも多々あります。大変なことを書きだすと紙面がいくらあっても足りないのでやめます。でもそれ以上に、中国での仕事は面白いと思います。甘えは許されませんが、良し悪しの評価がダイレクトに返ってきます。中国の開発関係の人は、日本人より海外に行っているいろいろな建築や街を見てよく勉強しています。ですからちゃんと準備しないと仕事はいただけませんが、何より良いのは、開発の規模が日本とはけた違いなことと、まだまだ建築設計の

仕事がたくさんあることです。

今、我々の事務所からは上海の超高層ビル群が見えます。森ビルを超える上海センターも2014年末に竣工予定です。上海センターの設計事務所ってご存知ですか？アメリカのゲンスラーです。一般的には内装設計のイメージがありますが、中国では上海センターの設計を取って以来、今では超高層ビルを何十棟と設計する一流の建築設計事務所です。まさにチャイナドリーム。我々も少しでも早く超高層建築の設計ができる設計事務所として、その仲間入りをしたいと思って日々頑張っています。



(写真：事務所からの風景)

II 光鮪会は今

■見学会の報告

横地純一 (H15) 愛知県

平成25年9月14日(土)に「秋の見学会」が開催されました。目的地は、現在でも日本の伝統・文化の中心であり、千年以上にわたって日本の都であった京都です。名工大の他学科を含め、81名の参加がありました。

最初の目的地は、京都府京都市にある「ホテル平安の森京都」です。ここでは名古屋工業会の総会が開催され、その後、昼食をいただきました。豪華な食事やお酒をいただきながら、参加者の皆様の会話もはずみ、懇親を深めることができました。

昼食後は、高台寺、霊山観音、二年坂周辺の散策を楽しみました。まず、高台寺についてですが、高台寺は、豊臣秀吉の正室(高台院・ねね)が秀吉の菩提を弔うために1606年に開創した寺院であり、広い庭園や茶室を有し、歴史の深さを感じさせる場所でした。



開山堂 (塔所)



遺芳庵 (茶室)



時雨亭 (茶室)



霊山観音

次に霊山観音ですが、霊山観音は、平和日本の建国と大戦による犠牲者の冥福を祈念するために1955年に建立開眼されました。観音像は、高さ24m、総重量約500tと壮大であり非常に印象的でした。

当日は三連休の初日でもあり、往路で交通渋滞に巻き込まれ、1時間遅れの到着となりましたが、幸い天気にも恵まれ、京都の深い歴史を感じることができた有意義な一日となりました。

■第三回鈴木禎次賞

夏目欣昇 (H5) 助教授

隔年開催の鈴木禎次賞(光鯨会百周年記念)は、今年、第三回目を実施し、大賞として、中西正佳氏(竹中工務店)による神戸国際中学校・高等学校アルモニホールが選ばれました。

4月下旬から募集開始、7月中旬応募〆切、54点の応募がありました。応募作品すべてが質の高い作品でした。今回は、ゲスト審査員に隈研吾先生(建築家・東京大学教授)をお招きし、10月10日、7名の審査員によりスターツ八重洲中央ビルにて最終審査会を行いました。審査会は、各審査員の投票をふまえた討議の形式で行い、厳正なる審議の結果、大賞1点、優秀賞2点、佳作3点が受賞作品として決定されました。

大賞の神戸国際中学校・高等学校アルモニホールはシャープな木の屋根架構を戴く体育館兼講堂です。キャンパスと里山の自然との融合を目指し、構造面ほか多種の工夫が凝らされた端整な作品です。優秀賞の2点は、SI集合住宅、複合積層学校といった都心の難条件に正面から挑んだ意欲作です。佳作に選ばれた業務系建築物3点は施設機能面だけでなく景観配慮も怠らない秀作です。愛知県歯科医師会館は東海地区から初めての入賞となりました。今回も卒業生から積極的な応募があり

■OB交流会報告

牧野利華 (H6) 大和ハウス工業(株)

OBから就職にあたっての心構えや職場の様子などを聞き、学生達に今後の進路の参考にしてもらおうという第8回光鯨会OB交流会が11月22日に行われました。

第1部はOBガイダンスとして、4名に語っていただきました。まずは田中俊洋さん(H9 奥村組)が施工現場での現場所長の仕事の流れをお話いただき、建物を作り上げることのやりがいや学生には伝わったと思います。

次は藤田健一さん(H17 伊藤建築設計事務所)が完成したばかりの設楽町新庁舎の構造設計に関わり、木造ならではの収まりやデザイン、スパンを飛ばすために苦労したことなどを具体的にお話いただき、大変興味深いお話でした。

次に上田寛二さん(H20 愛知県)がゼネコンから公務員に転職したことに対し、学生からはそれぞれの仕事の違いやプライベートの過ごし方などの質問がありました。

最後は金子翔太さん(H18 トヨタホーム)が、就職先を選ぶ際に重視したこと、新入社員の営業研修で飛び込み営業をしてやっとの思いで受注

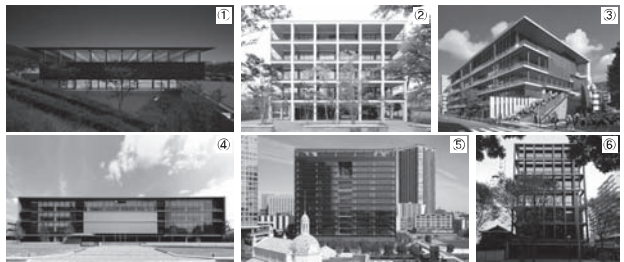
しましたが、残念ながら選から漏れました。

11月20日、名工大にて授賞式を執り行いました。隈研吾先生による聞き手を魅了する講演と受賞者による卓抜な作品説明に、百名を超える学生・参加者が熱心に聞き入りました。

次回も多くの応募が寄せられることを期待し、当賞が建築業界全体および建築教育に貢献できるよう鋭意努力する所存でございますので、何卒ご支援のほどお願い申し上げます。今回は(株)総合資格ほか多数のご協賛の上、実施いたしました。記して感謝申し上げます。当賞詳細については、光鯨会WEBページをご覧くださいと幸いです。

第三回鈴木禎次賞 受賞作品

大賞	① 神戸国際中学校・高等学校アルモニホール	中西正佳氏	(株)竹中工務店
優秀	② NAKANO CENTRAL PARK RESIDENCE	江島嘉祐氏・小野和幸氏	KAJIMA DESIGN
優秀	③ 中央区立中央小学校・中央幼稚園	小牧実豊氏・藤森慶弘氏	(株)久米設計
佳作	④ サミー株式会社川越工場	伊藤泰氏・瀬戸裕紀氏	(株)大林組
佳作	⑤ 豊洲キュービックガーデン	梶戸隆志氏	清水建設(株)
佳作	⑥ 愛知県歯科医師会館	降旗範行氏	(株)山下設計



どをお話いただきました。



第2部は交友会館にて軽食をいただきながらOBと学生との交流会を行いました。事前に配布した参加OBのプロフィールを参考にしながら、お目当ての先輩とのぎっくばらんな話しに大いに盛り上がりました。



■関東支部だより一支部長 吉井正行 (S58) 清水建設 (株)

支部長ご挨拶と総会・名工会の報告

光鯨会関東支部では、11月22日に支部総会を開催しました。今回は71名の方が出席し、そのうち20名ほどが平成になってからの卒業生です。残念ながら新入会員の出席はありませんでした。名工大からは、宮野先生、若山先生、水谷先生、井戸田先生に出席いただきました。

岡本会長の挨拶のあと、野呂先輩より『光鯨会の若手の会』立ち上げについての趣旨説明がありました。若山先生からは、鈴木禎次賞の概要について講演いただきました。

また、水谷先生から、関東支部役員メンバーに、最近就職先として人気のハウスメーカーの人間も入れれば、情報交換、情報伝達がスムーズになるのではないかというお言葉を頂きました。来年の支部役員会に諮ってみようと思います。井戸田先生からは学科紹介用パンフレットを用いての母校の



近況報告がありました。大学院への進学率や、就職先の動向、女子学生が増えたことなどをお聞きしました。

時間が前後しますが、11月9日土曜日に、名古屋工業会東京支部総会が開催され、参加してきました。名工会も参加者が少ないようで、単科会である光鯨会にも動員要請があったもので、支部役員10名が出席し、光鯨会から合計15名参加しました。総会の後、工業化学科OBである首都大学東京大学院の春田先生から『現代の錬金術 金のナノテクノロジー』という「トン」や「メートル」という単位を相手にしている私には全然理解ができない講演がありました。

その後、名工大オーケストラの演奏をバックに懇親会となり、楽しいひとときを過ごすことができました。今後とも光鯨会関東支部として、名工会を支援していこうと考えています。

〒105-8370 東京都中央区京橋 2-16-1
清水建設 (株) (03-3561-1111 (代表))
支部長 吉井正行 (S58)、副支部長 永田敬雄 (S45)
副支部長 鹿島孝 (S59)、連絡担当者 大柳聡 (H18)

■関西支部だより一支部長 千葉耕作 (S50) (株) 竹中工務店

支部長ご挨拶と支部活動報告



2013年の関西は、4月26日にJ R大阪駅貨物ヤード跡地にグランフロント大阪“うめきた”の街のオープンに始まり、6月13日に阿倍野ハルカス (日本一の300m超高層ビル) のタワー館百貨店がオープンし、来年3月7日には、タワー館の美術館・オフィス・ホテル・最上階展望台 (有料1500円の予定) 及び旧館ウィング館のリニューアルも含めてグランドオープンします。又 本年は、20年に一度の伊勢神宮第62回式年遷宮の年であり、数々のものづくりの技術の伝承の行事が行われ、10月5日には最重要行事であるご神体遷御の儀は行われました。

さて、通常は総会の報告をさせて頂くのですが、今年は、全国大会も兼ねて11月30日 (土) 国立京都国際会館において14:00~行われました。今年の講演会の内容は、式年遷宮の年ということもあり、神戸大学大学院教授 黒田隆二氏 (A53) による、出雲大社・伊勢神宮における遷宮の歴史と意味について講演がありました。

次に、今年度の関西支部活動報告をさせていただきます。

ミニ講演会を兼ねた定例会を偶数月第1金曜日に18:30~20:30 堂島の中央電気倶楽部214会議室で実施しました。内容は、下記の通りです。

- ・2月1日 (金) 講演者: 永野竹中工務店所長
講演内容: 梅田北ヤード大規模工場の紹介
- ・4月5日 (金) 講演者: 片岡宏治氏 (Y40)
講演内容: セメント系地盤改良材について
- ・6月7日 (金) 講演者: 稲葉一秀氏 (A H2)
講演内容: 念仏宗 無量壽寺「仏教之王堂」
- ・8月2日 (金) 講演者: 永田恵子氏 (東工大)
講演内容: 日本の伝統家具調度の設計論
- ・10月4日 (金) 坂口輝吉氏 (A56)
講演内容: ストック再生技術

次に、来年の活動計画は12月に幹事会で協議決定されますが、今年同様に、ミニ講演会を兼ねた定例会を2月・4月・6月・8月・10月の第1金曜日 18:30~堂島の中央電気倶楽部で行う予定です。又名古屋工業会との連携見学会も行う予定です。

〒604-8083 京都市中京区三条柳馬場東入ル中之町10
(株) 京都建築事務所常務取締役 宮本和則 (075-211-7277)
支部長 千葉耕作 (S50)、副支部長 吉良和晃 (S50)
連絡担当者 (事務局長) 宮本和則 (S55)